

出前授業を開催しました

～伊是名小学校、伊江・西小学校、多良間小学校～

土地改良総合事務所では、11月に、伊是名村、伊江村(国営完了地区)及び多良間村(全体実施設計)の小学校において、出前授業を実施しました。

沖縄県の島嶼においては、農業が基幹的産業として展開されている島が多く、日本の農業を取り巻く状況や食のはなしを学ぶことで、離島の将来を担う児童が農業に対する関心を高め、農業農村整備事業の役割や重要性について理解を深めてもらい、島の発展に繋げてくれることを期待しています。

伊是名小学校 令和6年11月6日(水) 4年生 11名

▶室内学習～食べ物のはなし、地下ダムのはなし、伊是名村土地改良区とは～

「食べ物のはなし」では、毎日食べている食材でも海外に多く頼っていることや、日本の食料自給率が低い現状を確認し、食料自給率を高めるためには、国内で生産された作物を多く生産・消費することが大事だと説明しました。

「地下ダム」の説明では、伊是名島における農業の経緯から地下ダムを造った理由や地下ダムの仕組みについて雨水の動きをクイズ形式にして説明し、地下ダムを含むかんがい施設が整備されたことにより、干ばつの時期でも作物へのかん水が可能となったことを伝えました。



室内学習の様子

「伊是名土地改良区とは」では、伊是名土地改良区が日々、地下ダムの水位状況やパイプライン、ファームポンド等の施設状態の監視、施設のメンテナンスなどを行っていることを説明し、土地改良区の存在があって初めて伊是名島の農業が発展し、持続していくことができることを伝えました。

これらの説明に対し、生徒たちは一生懸命メモをとりながら聞いており、クイズでは積極的に手を挙げて答えていました。

▶現地学習～千原第一副貯水池、千原取水機場、千原貯水池～



千原第一副貯水池見学

伊是名土地改良区職員の案内により、千原第1副貯水池、千原取水機場及び千原地下ダム(地表貯留部)を現地見学し、各施設の役割や農業用水の実際の動きについて説明がありました。児童らは山の上に大きなタンクがあることは知っていたものの、その役割については初耳だったようで、畑の下に地下ダムの水が広範囲で溜まっていることに驚いている様子や施設、地下ダム全体への関心が深まっている姿が見られました。

今回の出前授業を通して、児童たちが食べ物や地下ダム、土地改良区の役割について学び、伊是名島の農業について関心を持つきっかけになることを期待しています。

多良間小学校 令和6年11月26日(火) 4・5年生 12名

▶室内学習～食べ物のはなし、多良間島の水のはなし、赤土流出防止対策～

「食べ物のはなし」では、食料自給率を上げることの重要性や食品ロスを減らすことの大切さについて説明し、「多良間島の水のはなし」では、多良間島にあるため池の役割や地下水(淡水レンズ)を汚さないためにごみをポイ捨てしないでほしいことを説明しました。生徒たちは、職員から出題される問題に積極的に手を挙げ回答し、真剣に説明を聞いていました。

また、赤土流出対策の取組について学習しました。ほ場からの赤土流出対策によるため池への影響について説明し、こまめな清掃により水路や道路を保全する大切さ、ベチバーの果たす役割について理解を深めてもらいました。



室内学習の様子

▶現地学習～集水井、グリーンベルト設置箇所、赤地原ため池～

現地学習では、最初に地下水の観測ができる井戸(集水井)を見学しました。児童たちは、うつ伏せになって下を見るほど、普段は目に見ることのできない淡水レンズの水に興味津々でした。次に、一昨年出前授業でベチバーを植栽した場所に行き、実際にグリーンベルトにより赤土流出を防止している様子を見学しました。その後は、製糖工場や堆肥センター、現在、区画整理を行っている種子川地区をバスの中から見学し、役場職員の説明する内容を真剣な表情で聞いていました。最後に赤地原ため池に行き、実際にポンプから水を出すところを見学し、現在の畑にかん水するまでの流れを説明しました。生徒たちは、水の勢いに驚きながらも、かん水作業に労力がかかっていることを学びました。



井戸見学の様子



役場職員による赤土流出の説明

授業後、児童たちからは「ため池の水を汚さないために、水路や道路の掃除が大切だとわかった」「水を大切に使おうと思った」等の感想がありました。今回の出前授業を通して、多良間島の水や土壤保全の大切さを知り、多良間島の農業について、関心を持つきっかけになれば幸いです。

伊江小学校・西小学校 令和6年11月28日(木) 4年生 36名(伊江小13名、西小23名)

▶室内学習～地下ダムのはなし、伊江土地改良区とは～

室内学習は中央管理所で行い、地下ダムの目的や仕組み、果たしてきた効果について説明、伊江土地改良区職員の仕事内容について紹介しました。地下ダムの水を利用した「水あり農業」により、作業労力の軽減、干ばつ被害の防止、高収益作物の生産拡大が可能となったことなどを説明することで、伊江島の農業に興味を持つきっかけになったと思います。また、伊江土地改良区の職員が農業水利施設の管理を行っていることにより、畑まで水が行き届き、作物を育てることができていることを説明しました。



室内学習の様子

「伊江地下ダムの水の恵みとともに」のDVD鑑賞を行い、地下ダムができたことにより、多様な作物の栽培、地域の発展につながっていることを学びました。児童たちはスクリーンを見ながら真剣に説明を聞いていました。

▶現地学習～止水壁(レプリカ)、2号ファームポンド、ほ場での散水見学～

現地学習では、止水壁のレプリカを用いた構造の説明、2号ファームポンド、ほ場への散水の見学を行いました。



止水壁(レプリカ)見学

止水壁(レプリカ)の説明では、工事方法や施工機械について紹介しました。止水壁(レプリカ)を間近で見学し、興味を持って触っていました。2号ファームポンドでは、屋上に上がり、地下ダムからくみ上げられた水が貯水されている様子、近隣の畑でのスプリンクラーによる散水の様子を見学しました。児童たちは現地での見学を通して、地下ダムからほ場まで水をどのように届けているのかイメージすることができたと思います。参加した児童たちからは「地下ダムについて理解できた。」「水の大切さがわかった。」など好意的な感想をいただきました。今回の出前授業を通して、児童たちが伊江島の地下ダムや土地改良区の役割について学び、伊江島の農業に関心を持つきっかけになれば幸いです。



ファームポンド見学



集合写真